

あとがき

沖縄県がかかえる嘉手納飛行場・普天間飛行場は、高人口密度地域に存在する。飛行場周辺では航空機の昼夜を分かたぬ飛行のため、航空機騒音による生活妨害、健康影響がわが国でもっとも深刻であり、その騒音を地元のマスコミは「殺人的騒音」と形容する。しかしながらその騒音曝露の実態ならびに周辺住民の被害に関する総合的な調査、学術的な批判に耐える研究がなされてはこなかった。嘉手納飛行場・普天間飛行場がいつまで存続するかは容易に予見できないが、いつかはそれらの存在も歴史のひとつまとして過去のものとなるはずである。今の時点で専門知識をもって実態を記録し、データを分析しなければ、嘉手納飛行場・普天間飛行場周辺で起こっている事態を正確な情報として後世に伝えられなくなるのは、火を見るより明らかである。それは本調査にたずさわった者が、過去の騒音曝露の実態と住民への影響を知ろうとしたときに痛感したことでもある。このような事態が進行しているときに記録を残し、影響を検出しておかなければ、嘉手納飛行場・普天間飛行場周辺の航空機騒音曝露が、ある意味では密室のできごととして終わってしまうおそれがあるのではあるまいか。これが調査研究に従事した者の偽らざる感想である。

この調査結果が、所期の目的を達しているかどうかは、大方の批判に委ねなければならないが、調査項目と内容は、予算、人員、期限等の制限の中でほぼなし得るかぎりのものであった。必ずしも十分ではないことは担当者一同が誰よりもよく認識している。ただこれほど包括的な調査が1地域で行われた例が見あたらないという意味では、その機会を与えられた関係者に感謝するとともに、その調査研究に従事し得たことを研究者として幸運に思う。

騒音の研究者として嘉手納飛行場・普天間飛行場周辺で起こっている騒音曝露については、心を痛み、そこに居住する住民に同情を禁じ得ない。沖縄の米軍基地

の帰趨について云々することは本調査報告書の関知することではないが、今後関係諸機関が基地問題に適切に対処されることを切望する。その時正確な知見に基づいた議論がなされることを念願するものであり、本報告はその一助になると確信する。またこのような学術的調査研究は、現地の状況をうかがい知ることができない国外の関係者に説得力をもって状況を説明するに裨益するであろうと信ずる。本調査報告書が沖縄の基地問題の解決にいくばくかの貢献をすることができたなら望外の幸せである。

謝 辞

本調査は、沖縄県環境保健部環境保全室、沖縄県公衆衛生協会、関連市町村、航空機騒音健康影響調査研究委員会が、相互に協力して実施したものである。その意味では通常の委託事業とは異なる事業の形態となっている。今回の調査に際しては、このような良好な協力関係が形成されたことによってはじめて実行可能となった部分が少なくない。ここに関係者に深甚の謝意を表する。

また2回にわたる質問紙調査に回答された住民の方々、聴力検査に協力されたの方々、幼児問題行動の調査や学童の記憶調査に御協力くださった幼稚園・保育所・学校の関係者ならびに保護者の方々にあらためて感謝の意を表したい。